

地質ニュース

昭和 57 年 10 月 第 338 号 1982

深部地質構造のもつ意味(1).....	木村 敏雄	6
関東地方の砕石.....	岡野 武雄	13
第5回地熱資源会議に参加して (1981年10月25日-29日・ヒューストン).....	玉生 志郎	22
三土 知芳・兼子 勝・石和田 靖章 昭和の石油・天然ガス調査を語る.....		36
会話型データ処理—その7— 簡単な検索用プログラムの話—備品管理の例—.....	吉井 守正	43
ブラジルの錫地帯の点描.....	小村 幸二郎	50
ニューヘブリジーズのヤスール火山の切手 ニカラグアのモモンボ火山の切手.....	P. Q.	61
八幡平地熱地域モデル.....	須藤 茂	62
大阪西北部 ŌSAKA-SEIHOKUBU	藤田 和夫 笠間 太郎	64

口 絵	研究学園都市周辺, 地質の見どころ (その4).....	坂本 亨 正井 義郎
-----	------------------------------	---------------

編集 地質調査所

表紙の写真

水戸市の北西10数kmのところ、久慈川と那珂川に挟まれて北西—南東に細長く伸びる海拔100m前後の瓜連(うりづら)丘陵がある。この丘陵を構成している主な地層は、かつての久慈川河谷を埋積した河川堆積物を主とする第四系で、引田層と呼ばれているものです(坂本・宇野沢 1976)。坂本・宇野沢の調査当時は、この丘陵により露頭がなく、旧河谷のおおよその外形はともかくとして、引田層の内容については充分な吟味ができなかったのですが、その後、土とり場の大露頭が3ヶ所ばかり出現して、河谷埋積層の断面を目の当たりに見られるようになりました。

引田層の堆積構造などはグラビヤに譲るとして、表紙はその基底(やゝ側方)の不整合です。引田層は、海進に伴って次第に河谷を埋め立てて生じた地層ですから、その側面はもとの谷壁にアバットしているはずで、とはいっても、そのアバットのいい露頭となると、得難いものです。写真は、那珂川の北岸、大宮町坂地の北の土とり場。基盤は新第三系の海成泥岩で、引田層の基底礫岩がこれに水平な層理をもってぶつかっている状況がよくみられます。

(文 坂本 亨 写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社